

学校経営のポイント

“全国体力等調査結果”の活用

若井 彌一

去る1月21日、文科省（文部科学省）は、昨年4月～7月に実施した、全国の小学校5年生と中学校2年生を対象とする体力・運動能力、運動習慣等の調査（以下、「全国体力等調査」という）の結果を公表した。

“全国体力等調査”の目的と調査内容

文科省でまとめた「平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について（概要版）」によれば、全国体力等調査の目的は次の3項目である。

子どもの体力が低下している状況にかんがみ、国が全国的な子どもの体力の状況を把握分析することにより、子どもの体力の向上にかかる施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

各教育委員会・学校が全国的な状況との関係において、自らの子どもの体力の向上にかかる施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

各学校が、児童・生徒の体力や生活習慣、食習慣、運動習慣を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

この調査目的を一読すれば、すでに2度実施されている「全国学力調査」の趣旨ときわめて似ていることに気づかれるであろう。

このような目的をもって実施された調査は、大きく分けて、児童・生徒に対する調査と、学校に対する質問紙調査で構成されている。この調査は、(ア)実技に関する調査（以下、「実技調査」という）と(イ)質問紙調査で構成されており、小学校5年生は8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソ

フトボール投げ）、中学校2年生も8種目である（小学校とほぼ同じ。持久走が加えられており、持久走か20mシャトルランのどちらかを選択して実施）。

(イ)の質問紙調査は、生活習慣、食習慣、運動習慣に関する調査である（この調査については、解説を省略する）。

一喜一憂せず、継続的取組みの充実を

さて、1月21日に調査結果が公表されると、新聞は、全国紙・地方紙を問わず、一斉にその内容を取り上げている。そして、都道府県別ランキングが全国学力調査の場合とも関連づけた形で解説されている例が目立つ。「全国体力テスト」で検索すると、新聞報道でどのように解説されているかを窺うことができる。

全国体力等調査の目的については、すでに述べたとおりであり、その目的には、都道府県別の順位を競争させることにより、体力等を向上させるということは含まれていない。文科省でまとめている調査結果の〔概要版〕における解説も、都道府県や市町村別の全国的ランキングに着目して行われているわけではない。

〔概要版〕とはいうものの、この調査結果報告では、児童・生徒の体力向上に向けて、運動習慣・生活習慣と体力の関連、運動時間と体力の関連、運動習慣と運動嗜好の関連、さらには肥満と体力の関連等、多岐に及んで学校教育での今後の取組みの参考になる解説を行っている。

調査結果のランキング報道に一喜一憂しているのではなく、〔概要版〕を活用し、各学校での教育活動の充実に努めたい。

（わかい・やいち＝上越教育大学大学院教授・附属図書館長）

●最新刊好評発売中！ 高木展郎【編】 B5判 240頁・定価 2,520円 教育開発研究所

『各教科等における言語活動の充実』

■好評発売中！ '08・4月から実施の「指導改善研修」、免許更新制導入等への対応は万全か！

『教員の養成・免許・採用・研修』若井彌一編著 A5判 370頁 定価 3,570円